

『これからの社会を担う子どもたちの育成』

あま市立美和小学校

1 目的

美和小学校では、「力いっぱい考える子」「笑顔いっぱい思いやりのある子」「元気いっぱいがんばる子」を目指す児童像としています。これらの力を育むために以下のような手立てとともに、教育活動を進めています。

- (1) 「サイエンスショー」を通し、科学の不思議や実際の生活とのつながりを感じさせることにより、理科の学習をすることの楽しさに触れさせ、学習に対する興味・関心を高めます。
- (2) 「情報モラル教室」「デジタルシティズンシップ教室」を通し、情報社会に正しく、たくましく生きる力を育てます。
- (3) 「ハッピートーク事業」を通し、相手意識を大切にし、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力や自己肯定感を育てます。

2 内容 「考える子」「思いやりのある子」「がんばる子」を育む事業

(1) サイエンスショー

理科に苦手意識をもつ子どもが多い傾向にあることから、科学的な実験を子どもたちの目の前で行うことや自分たちが実験することで、理科の学習に対する主体性を育成できるよう努めました。子どもたちは、実験に対し「マジックかな？」と興味津々で講師の先生が説明するしぐみに熱心に耳を傾けていました。理科の学習に対する楽しさを体験できました。



【サイエンスショーの様子】

(2) 情報モラル教室

これからの時代を担う子どもたちには、情報教育が不可欠です。高学年になると携帯電話の使用も当たり前になってきます。そこで、情報モラルの知識や自分を律して正しい判断をする知識と知恵が必要となります。5年生では基礎的な内容を、6年生では応用的な内容を取りあげ、情報モラル教室を継続して実施することで、安全に情報を扱う方法や、SNS等を利用する際のルールとマナーを学びました。情報モラル教室を通して、トラブルなどを防ぎ、自己防衛できる力を付け、将来、社会で必要とされる正しい判断力と相手を思いやる豊かな心の育成に努めました。

（３）デジタルシティズンシップ教室

教育活動の中で一人一台タブレット端末の活用は、大いに進んでいます。３、４年生でデジタルシティズンシップ教室を実施することで、タブレット端末はもちろんのこと、コンピュータ、インターネットを積極的かつ適切に活用する力を育て、社会で貢献していく人材の育成に努めました。

（４）ハッピートーク事業

５年生が沖縄の小学校３年生とリモートでつながり、お互いの県である愛知県と沖縄県について紹介し合う活動を行いました。愛知県の観光スポットやおいしい食べ物を紹介するために、絵で表現したり、発表の仕方を工夫したりする姿が見られました。子どもたちは沖縄の海や自然の豊かさに興味をもったようです。この活動を通し、コミュニケーション能力の向上につながりました。



【沖縄の小学生と交流の様子】

３ 評価

これからの社会を担う子どもたちに大切なことは、自ら考え追究する力や自ら学ぶ姿勢、いわゆる主体性であると考えます。情報モラル教室やデジタルシティズンシップ教室など外部との連携を図ったことで、子どもたちには新鮮でよい刺激を与え、主体性をもたせる一助になりました。これからさらに進んでいくであろう情報社会を生き抜くための知識を身に付けることもできました。

また、サイエンスショーやハッピートークでは、人との関わりにも触れることができ、心豊かな子どもたちの育成に役立つ機会となりました。

４ 課題

これらの事業が単発的なものに終わらず、子どもたちの生活にどうつなげていくかということが課題です。そのためにも、学校の取組としてさまざまな事業や行事に対し、ねらいや目的をしっかりともち、取り組んでいく必要があることを感じています。これからの社会を担っていくのは、自分たちなんだということを発達段階に応じ、感じさせられるような教育活動を大切にしていける必要があると考えています。